

明治、大正時代における本校関係の新聞記事・広告

☆ ☆ ☆

1 (広告)

本新聞記事および広告は、明治、大正期に、大阪朝日新聞と大

阪毎日新聞に掲載された本校の校名がある主要なもののみを収録した。

凡例

一、各資料の末尾に掲載新聞紙名、発行年月日を表示した。

一、資料の見出しについては原資料そのまゝを用い、必要に応じ編集者において「」を付して注解した。

一、原資料をできるだけ忠実に収録したが、変体仮名などは通常の形に改めた。

一、誤字、脱字、誤植については、単純で明らかなものは、修正補正した。

一、ルビは削除した。

☆ ☆ ☆

高等英學校設立廣告

府下天王寺村梅屋敷東手ニ新築落成スル迄假ニ西區江戸堀南通五丁目江戸堀橋南詰南へ入西側ニ於テ英國ダラム及ロンドン大學ヲ卒へ久クセーロン三一大學校長タリシ經驗アル教育家テ、ダン氏及高等教育ヲ受ケタル本邦人數名ヲ雇入來ル廿日ヨリ開校致候間有志ノ諸君遊學アラントヲ希望ス

但シ委細ハ御來校ノ上規則書ヲ一覽アレ

校主 寺澤久吉

大阪毎日新聞 明治二十三年一月十四日

2
〔広告〕

入學試験課目廣告

●豫科一學年試験課目

●ロングマン第一讀本 ●十八史略 ●記事論説文

●算術 分數

●豫科二學年試験課目

●ロングマン第四讀本 ●文法、會話大意 ●記事論説文

●史記十傳 ●算術 終迄 ●萬國地理大意

●本科一學年試験課目

●ロングマン第五讀本 ●文法、會話大意 ●記事論説

●文章軌範 ●代數學 初歩 ●萬國史大意

此度限り束脩ヲ廢シ月謝三分ノ一ヲ減ス入學志願ノ者ハ來ル二月
三日迄ニ申込ムベシ

江戸堀南通五丁目江戸堀橋南詰南へ入西側

高等英學校

大阪毎日新聞 明治二十三年一月二十五日

3
〔記事〕

●高等英學校 天王寺村桃山の同校は来る三十日午後二時より

開校式を舉ぐる由にて吾社へも其招狀を寄せられたり

大阪朝日新聞 明治二十四年一月二十九日

4
〔記事〕

●開校式 新築落成せし東成郡天王寺村桃山の高等英學校開校

式は愈一昨日施行校主寺澤久吉氏の司會にて讚美歌、聖書朗讀、

祈禱、演説、勅語朗讀、祝禱等ありし後茶菓を來客に供せり因に

いふ同校は生國魂神社表門筋を東へ通りぬけし所にあり位置、建

築等當地私立學校中稀に見る所なりと

大阪朝日新聞 明治二十四年二月一日

5
〔記事〕

●高等英學校の開校式 同校は今度天王寺村に新築し一昨日午

後二時開校式を行ひたり其の新築は講堂寄宿舎浴室より諸器械に
至る迄能く整頓し閑雅清幽四顧寂然全く俗塵を斷つ眞に青年讀書

に適するの学校なり

大阪毎日新聞 明治二十四年二月一日

大阪朝日新聞 明治二十八年四月六日

6 [広告]

●桃山高等英學校生徒募集

來ル九月十日入學試験執行ス入學申込アルベシ

大阪朝日新聞 明治二十五年八月二十三日

8 [広告]

高等英學校生徒募集

九月十七日第二學期開始ニ際シ中學科高等科トモ各級へ入學ヲ許ス○今般中學科ノ月謝ヲ五十錢ト改メ又來學年ヨリ一學年ヲ増シテ各中學校ノ例ニ據ラントス○入學志願者ハ本月中ニ申込アルベシ○規則書送付ハ郵券二錢ヲ要ス

大阪桃山 私立高等英學校

大阪朝日新聞 明治二十八年九月三日

7 [広告]

規則改正生徒募集

本校ハ尋常中學程度ノ普通學及ビ高等ノ學科(英文學漢學數學等)ヲ教授ス○四月九日ヨリ一週間各級トモ入學ヲ許ス○高等小學二年卒業若クハコレト同等ノ學力アルモノハ中學科第一年ニ入學ヲ許ス○規則入用ノ向ハ郵券二錢ヲ添ヘテ申込アレ

大阪桃山

私立高等英學校

9 [広告]

桃山學院生徒募集

本院今般規則ヲ改正シ時勢ノ必要ニ應シ英語科ヲ擴張シ高等科並ニ中學科各級ニ入學ヲ許ス志望者ハ來ル四月八日迄ニ申込アルヘシ

大阪桃山^私桃山學院

大阪朝日新聞 明治二十九年四月三日

大阪朝日新聞 明治三十年四月二日

10 〔広告〕

○生徒募集廣告

本校今回英人ハモンド氏ヲ招聘シ従前ノ通り英語ニ力ヲ用ヒ中學科ヲ教授ス今ヤ學年試驗終了ニ付各級共入學ヲ許ス有志ノ者ハ四月十五日迄ニ申込マルベシ(但シ束脩一圓月謝五十錢)

明治三十年
三月卅日

大阪^私桃山學校

大阪朝日新聞 明治三十年四月一日

12 〔記事〕

●私立桃山中學校 大阪府私立桃山中學校は天王寺筆ヶ崎に設置し四月より開校の件認可すと文部省より告示せり

大阪朝日新聞 明治三十五年一月十七日

13 〔広告〕

●生徒募集廣告

本校第一第二級生徒募集ス高等小學二年級修了又ハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ志願ノ向ハ來四月十日限戸籍謄本ヲ添ヘ願出ベシ

但檢定料五拾錢

大阪市南區生玉表門筋上本町東入

四月

文部省
認可

私立桃山中學校

大阪朝日新聞 明治三十五年四月一日

11 〔記事〕

●桃山學校 當地桃山なる桃山學校に於ては一昨日午後二時より第四回卒業證書授與式を舉行し校主寺澤久吉氏の式辭其他あり受證者は高等科卒業四人、中學科四人、計八人、同校は今回規則を更めて尋常中學校の程度に準ずべしという

14
〔広告〕

●生徒募集●

本校來四月第一學年生徒若干名募集ス志願者ハ三月廿六日限願出
ツベシ

大阪市南區天王寺字桃山

文部省認可
私立桃山中學校

大阪朝日新聞 明治三十六年三月八日

16
〔広告〕

中學生徒募集

三年級以下尙多少ノ缺員アリ入學ヲ許ス志望者ハ來ル廿日迄ニ願
書差出サルベシ試験ハ廿二日より高等小學二年修了者ハ無試験一
年級ニ入學ヲ許ス

大阪市南區天王寺筆ヶ崎町

文部省認可
私立桃山中學校

大阪朝日新聞 明治三十七年四月十一日

15
〔広告〕

●生徒募集

各年級へ入學許可ス志願者ハ來廿五日限願
出ベシ但高等小學二年修了ノ者ハ一年級へ
無試験入學ヲ許ス

大阪市南區天王寺字桃山

文部省認可
私立桃山中學校

大阪朝日新聞 明治三十六年四月二十日

17
〔広告〕

○生徒募集

一年百名ニ、三、四年各若干名●出願四月
二日より同九日迄●規則二錢郵券ヲ要ス●

徴兵猶豫アリ●大阪市南區天王寺筆ヶ崎町

○文部省
認定私立桃山中學校

大阪朝日新聞 明治三十九年三月八日

18 [廣告]

豫備科

桃山中學校講師十六名出講
諸學校各學年入學試驗準備

英語科

學生科 授業午後六時ヨリ
成年科 講師内外人十數名

大阪東區空堀通三
元城南商業學校跡

中學豫備校

大阪朝日新聞 明治四十一年十二月二十三日

19 [廣告]

英語夜學科受驗

中學程度
四學年迄

桃山中學教師 東區空
堀通三

自彊學院

大阪毎日新聞 明治四十二年一月三十日

20 [廣告]

●生徒募集 四三二年各三十名三月
末日限●四月一年百名

特典徴兵猶豫
高等學校聯絡

大阪桃山中學校**受驗科**

四學年迄英語夜學科

桃山中學教師
及内外人出講

自彊學院

東區空堀
大阪毎日新聞 明治四十二年二月四日

21 [廣告]

●第四三二學年各三十名 三月末日限●壹學年百名四月十三日限

大阪桃山中學校

生徒募集

●特典徴兵猶豫高等學校聯絡●英語ハ一年級ヨリ英國人教授

大阪朝日新聞 明治四十二年三月八日

22 [廣告]

第一學年（無試驗）第二三四學年

大阪桃山中學校生徒募集

特典徴兵猶豫高等諸學校入學資格

大阪朝日新聞 明治四十二年三月二十五日

23 〔広告〕

◎文部省大阪私立桃山中學校第一學年生徒募集

大阪朝日新聞 明治四十二年四月八日

24 〔記事〕

學生相撲大會

三百疊の露天幕の下、三十六俵砂うつ高く盛上げ、櫓太鼓の音こそなけれ朝早くより彩旗を翻へして場所の景氣滅法によく建敷きたる上に集ひ來たれる見物は定刻前既に一杯とはなりたり。

力士はこれ悉く血氣横溢する學生なり楯に應じて馳せ参じたる剛の者實に七十名高きは六尺に達するがあまり重きは二十貫に餘るがあり隆々たる筋肉の宛ら彫刻のごとく美しくしが、此に三十五番の取組となりてまづ紅白

勝負よりぞ始まりける。

呼出し奴の聲に應じて土俵に上る各自が力士名の滑稽なる、高醫學生の聴診器といへるにまづ満場哄笑すれば續て測候所と云ふあり、亞歷山といへるあり、加奈太といへるあり何れも取々に可笑しかりしが、楮て勝負に入るや紅軍の天王山（天王寺師範三谷）まづ六人を倒せば次いで日本海（高等工業米本）十二一人を打敗つて尙ほ綽々の餘裕を示し天の川（高等工業大植）および虎の子（神戸高商石井）又五人を抜き兩軍入亂れて奮闘の目覺しきに喝采湧くがごとく斯くて紅白勝負終れば取組一番勝負に入り學生連の熱狂は更に一層を加へたり重なる勝負左の如し。

勝 負 勝 負

時子山 測候所 西田川 茅海

日本海 岩友 小富士 大砲

和歌の浦 櫻嶋 天保山 桑田池

清水川 湊川

三 役

体温器 堂嶋

天の川 加奈陀

加茂川 虎の子

當日の東の關加茂川は第三高等に聞えたる腕力家壬生氏にして西

の關虎の子は神戸高商の剛の者石井氏なり。

それより三人抜五人抜の亂闘となり天王山（天王寺師範三谷）加茂川（三高壬生）虎の子（神商石井）紀の川（和師稗田）天の川（高工大植）の諸勇士三人抜勝者として置時計を得加茂川（三高壬生）和歌の浦（和師福田）五人抜をして銀時計を得、外に不知火（桃山中學河合）は抜群の働きとありて是又銀時計を得たり、これにて六時學生相撲大會を終り更に當日呼び寄せたる朝日山部屋の小力士數十名の三人抜あり七時目出度閉會を告げたるが當日學生の勇氣凛々として當るべからず健剛驚くべきものあり突き、叩き、上手、下手の投げなど黒人の壘を磨し賞嘆に堪へざるものありき兎に角近來の壯快なる催はしなりしは吾社の満足これに過ぎざるなり、テニス大會の記事は第七面を見よ。

大阪毎日新聞 明治四十二年七月二十六日

25 【記事】

● 寺の庭球戰

關西庭球界の關ヶ原〓參加學校三十一

去月三十日舉行の筈なりし本社主催第四回各中等學校庭球大會は連日雨天のため延期となりしが愈二日午前十時四十分より例年の如く濱寺コートにおいて開催せり朝來薄曇の風もなく好個の庭球日和にして腓肉の歎に堪へざりし健兒は雀躍してラケットを掲げ來會せしもの實に卅一校殊に本年より本社は最優勝者に對して優勝旗を贈るゝとしたれば選手の意氣込一層壯にしてその奮戦健闘の様見るからに凄じくコートの四圍に堵集せる觀客は折柄の炎暑にも恍惚として酔えるが如くなりし試合は先づ關西學院と天王寺師範との對戰に始まり十六回の競技をなしたるが就中桃山中學對岡山中學は桃山の後衛岩間左利の熱球を以て大に敵を苦しめ前衛戸田飛鳥の如く駆け廻りて奮戦せしも岡山方亦堅實にして桃山方遂に三對二のクロースゲームを以て敗退せしは惜むべし北野中學の後衛阪コントロール巧にして昨年の最優勝者京都二中の名手道盛と對し更に遜色なかりしが北野の前衛北木に失策多く遂に北野方の敗に歸したるがその健闘や嘉すべきものあり審判規則に基き再び登場を許されて懸軍遠く東都より來會したる早稻田中學を邀へ掉尾の勇を揮ひしも武連拙く早稻田方の斃す所となりたりその參加學校および成績左の如し

關西學院（關西）▲天王寺師範（天師）▲神戸商業（神商）▲大阪高

商甲種科(大高甲)▲天王寺中學(天中)▲神戸第一中學(神一中)
 ▲明星商業(明星)▲同志社(同志)▲市岡中學(市中)▲清和中學
 (清和)▲京都農林(京農)▲今宮中學(今中)▲岡山中學(岡山)▲
 桃山中學(桃中)▲京都第一商業(京商)▲八尾中學(八尾)▲京都
 師範(京師)▲私立大阪商業(大商)▲茨木中學(茨中)▲和歌山中
 學(和中)▲上野中學(上野)▲淨土宗中學(淨中)▲岡崎中學(岡
 崎)▲神戸工業(神工)▲京都第二中學(京二中)▲北野中學(北
 中)▲名古屋第一中學(名中)▲大阪高商豫科(大高豫)▲御影師
 範(御師)▲津中學(津中)▲早稻田中學(早中)

勝

頁

田中、本田(關西)三一〇 神田、田中(天師)
 藤原、岸田(神商)三一〇 古川、岡野(大高甲)
 山口、植村(天中)三一 矢嶋、烏山(神一中)
 奥野、一柳(明星)三一〇 嶋崎、安川(同志)
 畑、中川(市中)三一 大鐘、芦田(清和)
 松村、川喜多(京農)三一 淀川、石澤(今中)
 大森、武中(岡山)三一 岩間、戸田(桃中)
 大藪、竹内(京商)三一〇 木村、友田(八尾)
 梅原、埴見(京師)三一 伊角、出上(大商)
 奥野、藤田(茨中)三一 金澤、金澤三(和中)

菅野、別府(上野)三一 山本、今井(淨中)
 鷹部屋、河合(岡崎)三一〇 佐々木、王子(神工)
 道盛、下(京二中)三一 阪、北木(北中)
 中野、宮津(名中)三一〇 磯部、瀬川(大高豫)
 秋岡、榎木(御師)三一〇 田中、市瀬(津中)
 奈良、川久保(早中)三一 阪、北木(北中)
 (以下略)

大阪毎日新聞 明治四十四年八月三日

26

[記事]

●外人教師の盜難

九月三十日の夜東天下茶屋なる桃山中學校英語教師ローリングス氏宅へ曲物忍び入り現金百餘圓、金鎖を始め傍にありし重要書類盜取されたるがこは學校の卒業證書教員免狀等にて同氏の心配一方ならず他人にとりては一文の價值なきものなれば萬一曲者が打捨てたるを拾得の方あらば其の旨報知されたく相應の謝禮を呈すべしと

大阪朝日新聞 大正元年十月十六日

27 〔記事〕

▲桃山中學武術大會

十五日午前十時より開會重なる撃

劍の勝負左の如し

◎吉井 (大商)	◎竹村 (大商)	◎柴崎 (關大)
◎伊井 (桃中)	◎三宅 (桃中)	◎川上 (桃中)
◎伊藤 (上中)	◎西口 (上中)	◎高田 (大農)
◎牧田 (桃中)	◎牧 (桃中)	◎渡 (桃中)
◎久島 (大農)	◎二川 (高醫)	◎堀田 (成商)
◎吉川 (桃中)	◎楠本 (關大)	◎田畑 (成商)
◎吉田 (高醫)	◎北里 (關大)	◎石田 (成商)
◎中村 (桃中)	◎三宅 (桃中)	◎吉村 (成商)
◎三浦 (伊丹中)	◎江口 (成商)	◎田口 (伊中)
◎堀内 (天師)	◎石野 (市中)	◎吉川 (天師)
◎前田 (市中)	◎播田 (市中)	◎森本 (成商)
◎田畑 (桃中)	◎川上 (桃中)	◎牧田 (成商)

大阪朝日新聞 大正二年十月十六日

29 〔記事〕

東成郡東天下茶屋なる私立桃山中學校四年級生徒百餘名は八日突然同盟休校をなし十日に到るも登校せず學校側は秘密に附し居れるが原因は從來同校の應援隊長として彌次の大將なる五年級井上某に對し四年級生徒は常に快よからず四年級の有志者前田蒸、小林文藏、吉田保、中村六郎曾我部某の五人は井上に對し其應援振を改めしむべく協議し居れりとの事を五年級が聞き下級生の分際として生意氣なりとて七日の放課後五年級一同は前記五名を運動場にて毆打せしより四年級は大に憤慨し大江神社境内に集合して凝議の末代表者は校長に向つて毆打者の退校處分と井上の謝罪を迫り秘密凝議の折柄九日夜四年級生一名は又も五年級生のために中之島公園に於て毆打されし事判りしかば四年級は益激昂し更に舍利寺に集合協議せりとの噂あり、學校は十一日父兄を呼出して頻に善後策を講じ居れり

大阪朝日新聞 大正二年十一月十一日 朝刊

28 〔記事〕

●桃山中學の同盟休校

●桃山中學生の争闘

府下東成郡田邊村私立桃山中學校生徒間には四年級と五年級との軋轢甚しく間々争論を惹起し來りしが五年級の井上某が運動部の團長として先日箕面豊中グラウ

ンドに開催せる野球大會に際し理由なく明治大學の應援を爲さしめたりとて四年級生徒は井上排斥の決議を爲したるを五年級が聞きし去る七日午後三時頃井上等は校門前にて四年級の中村六郎、幾原丞、小林文造、吉田保、曾我部某等を袋叩きにして負傷せしめしより四年級側は憤慨して全級一人も登校せず九日夜校長に對し井上等に退校處分を命じ五年級生徒をして校庭において四年級生徒に謝罪せしむべしと迫りたるに同夜學生大會の提灯行列にて又もや四年級小林文造が五年級生徒に袋叩きにされしかば更に一層の憤怒を加へて四年級生徒全部百五十名は十日朝大江神社の境内に集合し不穩の模様あるを學校側にも狼狽して十日午後四年級生徒の父兄を招きて生徒の登校を促し五年級生徒中の暴行主謀者は取調の上處分すべしとの意嚮を述べたるが四年級生徒は尙登校せず紛擾を極め居れり

大阪毎日新聞 大正二年十一月十一日

30 〔記事〕

●桃中紛擾止まず

府下東成郡田邊村私立桃山中學校生徒間の紛擾問題は猶ほ容易に鎮定せず四年級生徒は淺野校長が五年級生徒を處分せざる中は斷じて登校せずとて十名の委員を選

み既報二條件の外學生相換大會に臨むべき應援歌を教授して四年級は五年級の指揮を受くべしと命令せし田中體操教師の排斥を要求し十日來屢々校長に迫りつゝあるも容易に實行を見ざるより今は四年級對學校の紛爭となりしが十一日夜同校出身の校友生十七名は天王寺権寺町八百松に集合し調停の勞を取らんとせしも四年級生徒の父兄等は學校の廻し者ならんと見做して重きを置かず右父兄等もまた同夜権寺町の八百末に協議會を開き兎も角五年級の生徒が四年級生徒に暴行危害等を加へざる限りは一先づ登校するに決し本日委員は學校に至り右の次第を申出づる筈なりと

大阪毎日新聞 大正二年十一月十二日

31 〔記事〕

●桃山中學同盟休校後報

桃山中學校五年生徒の四年生五名毆打事件は一部の父兄に於て騒ぎ立つるものありし故大仰となり爲に四年生七十四名は十二日も肝腎の課業を廢して休校せる有様なるが父兄總代として十二日午後一時青木省三外四名は校長に面會し五年級の不正行爲に就き矯正する方法如何を交渉したるに校長は今後責任を負うて斯る事は

爲すまじきを誓ひたれば五年生中より十名四年生徒中より十名の委員を設け兩生徒を一堂に會せしめて融和會を開き其上にて生徒を出校せしむる事と決し午後五時何れも引取りたり

大阪朝日新聞 大正二年十一月十三日

32 〔記事〕

●光榮に浴する桃山中學校

〓本日の御講評場〓

十八日畏くも陛下の玉座に充て参らすべく御講評場と定められたる東成郡田邊村私立桃山中學校にては此の恩命に接するや恐懼措く所を知らず御質素を重んぜらるゝ大御心を體して一切人夫を雇ひ入れず校長始め職員生徒必死となつて校内外の清掃に努め玄關前より御講評場となるべき中央の校庭には一面大和川の白砂を敷き詰め階上二十室は總て宮内省御用に宛つることゝ何れも清掃の上に清掃し玉座は階上東北角にしてこれに降て侍従武官供進所をそれ〓設けられたり、而して當日職員生徒一同は同校門前にて奉送迎をなし御講評の後陛下には玉座にて御登餐を聞召しそれより校庭に記念の御手植あ

らせらるゝやに漏れ承る尙成續品をも敏覽に供へ奉るべしと

大阪朝日新聞 大正三年十一月十八日

33 〔記事〕

●最終日の御統裁

〓城南平野の大激戦〓

陛下には十八日午前七時大本營御出門上本町筋より椎寺町を南へ阿倍野街道を伏見宮殿下御陪乘にて鹵簿肅々桃山中學校まで成らせられそれより御愛馬藤園に召されて同八時半東成郡田邊村字草道の御野立所に成らせられた、この日の御野立は前日の八尾に於けると同様、一面の大根畑を切開いて其中に小高く土砂を盛上げたばかりである、それさへあるに恐れ多きは陛下の立たせ給ふ御前敷間の地上を高野鐵道の高壓電線が通過して居た事であつた、鐵道側の方でも恐懼措く處を知らず御野立の間全然送電を休止した、斯くて聖上御着と共に直に戰園は開始せられた畏多くも陛下には長谷川總長の御説明を聞し召されつゝいとも御熱心に御覽遊ばされた戦ひ愈進んで東軍は刻一刻敵陣に肉薄し今しも兩軍

最後の突撃戦となるや、畏くも陛下には御机より二三歩

進ませ給ふを拜した、戦闘開始より實に一時四十分間、陛下は斯くの如くして御統監遊ばされたのである、かくて御愛馬藤園に召され伏見、閑院兩大將宮殿下以下數多の文武官を従へさせたまひ御野立所より七八町ばかり西北なる桃山中學校に御成り階上の玉座にて御休憩御晝餐を召させ給ひ午後一時より同校庭に於ける參謀總長の講評を聞召して同二時同校御出門伏見宮殿下御陪乘御馬車にて順路同四十分大本營に還幸あらせられた

大阪朝日新聞 大正三年十一月十九日

34 [記事]

●大演習講評

午前十時を以て特別大演習終了するや大元帥陛下には直に桃山中學校の御講評場に入らせられ御晝餐後長谷川參謀總長、大嶋、淺田兩軍司令官以下兩軍將校及統監部員、陪觀將校等約四千名を召させられ諸員は午後零時四十分左の順序に依りて圓陣を作り整列せり

◎西側(北軍) 第四師團▲第十七師團▲北軍飛行機隊▲電信電

話隊▲審判官

◎東側(南軍) 第十一師團▲歩兵第三十七旅團▲第十師團▲飛

行機隊▲電信電話隊▲審判官

◎北側 統監部諸員

而して大嶋、淺田兩軍司令官は圓陣の中央に相並んで北面するや大元帥陛下には午後一時出御、諸員最敬禮の裡に中央に南面して立御、參謀總長をして第一日以來の演習經過を詳細に諱辭せしめ給ひ畢つて玉音朗に左の勅語を賜はり午後二時龍顏麗はしく還幸あらせられたり

大阪毎日新聞 大正三年十一月十九日

35 [記事]

▲學生相撲大會 大阪日報主催第六回關西學生相撲大會

は二十二日早朝より濱寺公園にて舉行、選手を成年、未成年の二部に分ち一回より二回と順次出場選手を選抜して取組ませたるが相撲狂の關大は二回目にも全滅し成年部にあつては高醫、和歌山師範、大阪高商の三校最も成績良く未成年部では同じく和歌山師範、高醫及び高工等優勝の地位を占め居たるが四回目に至り高醫の未成年部遂に全滅し斯くて成年部にては遠征の明大君塚

選手頗る振ひ最後に高醫の和田を仆して優勝し未成年部にては和歌山師範の貴虎選手桃中の宮本選手を仆して優勝し午後八時散會せり

大阪毎日新聞 大正三年十一月二十三日

36 [記事]

●桃中十哩競走

桃山中學校塚往復十哩競走は九日舉行成績左の如し

▲第一着 (一時間十一分) 五年高野納子 ▲第二着 (一時間十一分八秒) 三年西岡 ▲第三着 (一時間十五分八秒) 五年中元 ▲第四着 (一時間十五分二十三秒) 四年今道 ▲第五着 (一時間十五分二十九秒) 四年那波 ▲第六着 (一時間十五分四十秒) 四年澤田 ▲第七着 (一時間十五分四十八秒) 四年多賀屋

大阪朝日新聞 大正五年五月十日 朝刊

37 [記事]

●中學生父兄の意見を蒐めて

|| 主務省に迫らんとす ||

◆婦人矯風會、廓清會等の遊廓反對同盟會では所謂輿論と云ふものの、實際の證據を擧げる爲に今宮中學、桃山中學等の各學校の生徒の父兄に一々手紙を發して其の意見を求めた既に今宮中學だけは全校七百の生徒に此の手紙を渡し済みに成つたが其の内の七八分通りは返事を寄して中には相應に名の聞えた紳士もあり

◆同盟會では此の返事を一束して主務省に迫る筈だと云ふ尙反對同盟會の第三回大演説會は十八日天王寺公會堂に於て開催し宮川經輝、石橋爲之助、エルスキン諸氏の演説がある筈で此の外にも青年會の事業として十四日午後七時から土佐堀青年會館で反對學生大會を開き大阪高商の生徒中から辯士數名出演する筈である

大阪朝日新聞 大正五年五月十三日 朝刊

38 [記事]

●學校と飛田問題

大正五年五月二十七日

飛田遊廓地附近各種學校學生
保護者大會足立熊次郎外千餘名

土佐福音教青年會館内飛田遊廓設置反對同盟會を代表して林歌子女史は三十日午前右決議書を齎して府廳に大久保知事を訪ひ種々陳情ある所あつて引取つた

大阪朝日新聞 大正五年五月三十一日 夕刊

●桃中大勝す

●桃中大勝す 十一日午後一時半より鳴尾グラウンドに於て桃山中學校對天狗俱樂部の野球試合を舉行し桃中の攻撃大に振ひ十一點を得しに反し天狗方振はず十一對三にて桃中大勝したなり(バッテリー桃中吉田、尾崎、天狗松田、西尾)

大阪朝日新聞 大正五年六月十二日 朝刊

全國野球豫選大會

▲大阪大會（第二日）

五日午前九時より第二日目を舉行する筈なりしが成器商業の選手揃はざりし爲め約二時間遅れて十一時二十分より成器商業桃山中學の試合を舉行したり

桃中卅九、成商零

●桃中卅九、成商零 成商の先攻にて開始桃中四球と敵失に宛ら無人の境を行くが如く一回に十一點三回に五點を入れ更に四回には打者としてボックスに立つ者實に二十八人一舉に卅九三點を入れ成商は毎回凡打と三振に斃れノーヒット、ノーランに終り五回ゲーム三十九A對零にて桃中大勝す

(球審渡部、壘審西川)

中
原本原
保山本
城田

8 木 原
6 塚 本
2 河 原
3 牧 原
4 久保山
1 松 本
5 太 田
7 城
9 吉 田

失四安打
死 打
策球打數

二一三
一三〇四

商 生野本 村田 瀬間 條
 7 麻東山 林 濱 奥 柳 佐 久
 2 1 6 3 8 5 9 4
 4

打 安打 一
 數 死球 五
 策 二
 一 零

大阪朝日新聞 大正五年八月六日 夕刊

41 〔記事〕

●市岡か桃山か

▼本日の野球優勝戦

◆四日以来豊中グラウンドに開催中なる大阪高商主催の大阪野球大會参加校は前三日間の試合に順次敗退して残るは唯市岡中學及び桃山中學の二校となり今七日午後三時より最後の優勝戦を行ふ事となりしが此の兩校は春來大阪の球界を兩分して共に四隣を睥睨しつゝありし最強のチームにして其技術の卓越せる事は單り大阪のみならず全國を通じて多く其比を見ず二者の内何れが優勝するも、来る可き全國大會の曙れの壇上、關東東北を始め各地の健剛と相對して堂々の戦ひを行ふに毫も不足を感じず

◆而も此兩者は昨秋十月現今のナインを以て互に鎗を削りたるも勝敗の決を見るに至らず同點の儘引分となりし以來一回も試合を

行ひし事なしと云へば本日の優勝試合は二重の意味に於ける決勝戦にして爾來十箇月兩軍不斷の練磨と善謀は今日果して幾千の差をか生じたる、近く桃山は京洛の野に出征して早大の留守軍に惨敗を喫せしめたる同志社及び最近京津大會に再度の優勝をなせし京都二中等を撃破して殆ど京阪の球界無敵の觀あり、又市岡は去月早大の留守軍と戦ひ善戦十合の後惜しき敗北を遂げて以來二週日同校の先輩にして早大の選手たる佐伯氏のコーチを受けつつ燒くが如き炎熱下に火の如き猛練習を積み來りし者なるが

◆尙今次の大阪大會に於ける成績は共に第一回戦に於て四條畷、成器商業の兩校と戈を交へて容易に一勝し二回目には明星商業及び北野中學の兩者を敵とし稍苦戦せる點に於て相一致し更に其技倆に至つては雙方共中等學校としては殆ど完璧に近き好バッテリーを有し其他の守備攻撃亦互に一長一短を持して優劣を見ずされば本日の試合は一に唯機會を捉へると然らざるとの差に依つて勝敗を決す可く大會の優勝戦としては眞に絶好の顔合せにして昨日來滿都好球家の血潮を極度に沸騰せしめつゝあり

◆再び云ふ勝ちは市岡か桃山か、假しは尙手に在り而して本日下午三時愈其手を離れて何れかの目を現はさんとする苟くも球を好む者は斷じて此興味ある一戦を見落す可からず

大阪朝日新聞 大正五年八月七日 朝刊

42 〔記事〕

●市岡遂に優勝す

▲白熱的大接戦の末

◆大阪野球大會最後の決勝戦なる市岡中學對桃山中學の優勝試合は豫定の如く七日午後三時二十五分より舉行したるが兩軍の技倆眞に相伯仲し其勝敗の數は何人と雖も豫斷するを得ざりし好試合の事として此一戦に啖られし市内の好球家は勿論遠くは京都和歌山地方より押し寄する觀衆引きも切らず試合開始前一時間と云ふに兩側のスタンドは早くも満員となり更に其の側方に延びて立ち並びたる群衆萬を算し本大會開始以來の盛況を呈したり

◆されば雙方選手の意氣込も前日の比に非ず殊に桃中方九名の選手は何れも白鉢巻の中に八幡宮の神符を疊みて眞向に戴き決死の面色轉た物凄きもの有り、兩軍の應援團亦殆ど全校を空しうして來り會し兩側のスタンドに陣を張りて互に喚聲を揚げ戦ひ始めらざるに先づ一道の殺氣磅礴として場に漲るを覺えしが果して試合は別項の經過に記載せるが如く毎回息苦しさを感ずる許りの緊張を持して終始し眞に白熱的大接戦を演じたる末二對一のスコアにて市岡の勝利に歸したり其經過の大要左の如し

▲第一回 桃山先攻二死の後河原二壘ゴロの失に生きて二壘を

盗みしも牧原三振して止み市岡劈頭の富永二壘にライナーの難球を送りて出で島道の三振後田中の投手ゴロを投手一壘に惡投して生かし松元四球を利して一死満塁の好機に臨みしが山田投手にゴロを呈し富永共に併殺されて點を成さず▲第二回 桃山無爲市岡の平松遊撃後にテキサスリーガーし岡四球に出でしも後續續かず▲第三回 兩軍無爲▲第四回 市岡二死の後平松再び二壘に安打して出でしも魚谷三振して得點無く▲第五回 又桃山無爲の後を受けて市岡一死後富永四球に出で投手の暴球と島道の三壘ゴロにて三壘に立ちしも田中凡死して尙點を成さず▲第六回 桃山一死後吉田初めて中堅に安打し木原の犠牲バントを待つて三壘を得しも塚本投手ゴロに斃れて機を逸し市岡先頭の松元中堅越の三壘打を放ちて出でしが山田投手に貧弱なるゴロを呈し水田のバントは却つて松元を本壘に憤死せしめて再び絶好の機會を逸す▲第七回 ラッキー、セブンは桃山の爲めに來り、先頭の河原死球に出で、二壘の盜奪に成功し續く牧原久保山共にバントを過つて大死せしを見るや猛然として壘の盜奪を企て三壘手の迂愚捕手よりの好球をムザ／＼と逸して左翼に轉々せしめたるに乘じ一舉に生還して先づ一點を奪ひ桃中應援團の狂呼絶頂に達す市岡は富永が死球に出でしのみ▲第八回 桃山の太田四球に出でしも後續又もやバントを過つて大死

打撃數廿八▲犠牲球二▲四死
球三▲安打一▲盜壘七▲三振
八▲得點一

打撃數三十一▲犠牲球〇▲四
死球五▲安打六▲盜壘二▲三
振八▲得點二

大阪毎日新聞 大正五年八月八日 朝刊

44 〔記事〕

何の中学が成績が良いか

〓茨木中學が一番で北野が二番〓

各高等學校を始め各官立學校の入學試験は先づ一通り終了を告げ夫々官報で發表された、それに對する大阪府下各中學校卒業生の成績は果して何んなであつたらう、官公立學校への入學者數の多寡を以て其の學校の成績を斷ずることは無論出來ないけれども凡そ其學風を窺知する參考としては適當なものと思惟される今各府下中學から一高を始め各高等學校への入學者數を調査するに

□一番多いのは 茨木中學の二十六人で次は北野二十人、天王寺の十三人、桃山の十一人、今宮の十人、市岡の九人、堺の七人、四條畷、岸和田、富田林の各二人、八尾の一人の順で右の内三分の二は土地柄手近の三高が占め岡山の六高、金澤の四高それに次ぐの有様であつた。勿論右の入學者數が直に其の學校の學力率

を證明するものとはならない、それは受験者總數との比例によつて始めて分明するのであるが今は其の數が不明だから本年度の卒業生總數に對する入學者の百分比率を算出し以て其の學校の成績とすると即ち左の通りである

八尾 〇、〇一九▲茨木 〇、三三三▲四條畷 〇、〇二九▲
堺 〇、〇七八▲富田林 〇、〇四三▲桃山 〇、一二八▲岸
和田 〇、〇二九▲市岡 〇、一二二▲北野 〇、一九〇▲今
宮 〇、一一九▲天王寺 〇、一三五

茨木の卒業數は七十八人、北野は百五人、天王寺は九十六人であるが入學者數に於ても卒業生百分比に於ても

□一、二、三位は 茨木、北野、天王寺の三校が占め八尾の卒業生は五十六人であるが入學數が僅か一人なる爲め最下位となつて居る、次ぎに神戸東京兩高商、其他高工、醫專等の一般官立學校への入學者數を調査するに北野の三十八を筆頭に茨木三十人、今宮二十六人、桃山二十二人、市岡二十人、堺十四人、岸和田九人、四條畷七人、富田林六人、八尾五人の順序で是又卒業生との百分比を算出すると

▲八尾 〇、〇九六▲茨木 〇、三八四▲四條畷 〇、一〇一▲堺 〇、一五六▲富田林 〇、一二八▲桃山 〇、二五六▲
岸和田 〇、一一八▲市岡 〇、二五〇▲北野 〇、三六二▲

今宮 〇、三一〇

で數に於ては北野が多いが比率にすれば次木が一位を占め、北野二位、今宮三位、市岡四位、桃山は五位で八尾は又も最下位となつて居る前者後者を合して一番成績のいゝのは次木中學で北野中學が二番である、來年は何うなるだらう

大阪朝日新聞 大正五年八月十四日 朝刊

45 〔広告〕

●桃山中學校

本校が都下に初めて「英語を以て高等普通の學科を授け、卒業後直に實業に就かんと欲する者に、必要なる智識と獨修の學力とを得しむるを以て目的とす」と云ふ遠大なる抱負を發表し、鮮明なる旗幟を識し、學問殊に英語の智識を缺ける都人士に覺醒の第一鐘を發ちしは、實に明治二十三年一月十四日なりき。經費は英國シ・エム・エス傳道會社の補助と有志の義捐とによりて維持せられ校名を高等英學校と稱したり。當時は一民家を假校舎に充てたることなれば、勿論規模小に、設備亦不完全たるを免れざりしも、開校早々十九名の生徒を收容するを得、校長ダン氏及び内外人三

名親しく教授の勞を執られたり。是より先き、本校が前途の大發展を期し、東成郡天王寺村中山（赤十字社大阪支部病院所在地）に工事を急ぎつゝ、ありたる校舎は、翌年一月竣成せしを以て、その三十日に移轉せり。舊校舎即ち是也。二十五年前の桃山は附近一眸維れ悉く桃園、都門の風塵を離れたる極めて閑靜なる土地なりき加ふるに巍然たる洋風の校舎亦當時他に比類なき建築物なりしかば、春風吹き、桃花開く頃、本校の高く屹立せる様は眞に崇高にして、晝も及ばざる眺なりき移轉後、時勢の進運に鑑みて、或は學科目を改正し、或は年限を増減按排し、基礎漸く鞏固に校勢日を逐うて隆盛に向ひたり。

卒業生亦年々百二三十名を出し、その官公立學校入學成績の如き頗る良好にして今其の數千名を超え社會の各般に互りて貢獻する所多からんとす。

大阪朝日新聞 大正六年二月二十八日 朝刊

46 〔記事〕

◇血判して◇◇◇―選手を激勵

昨の炎暑に反して―腥風吹く豊中運動場にて

大阪野球豫選大會第二日

全國中等學校野球大會大阪豫選大會第二日の豊中グラウンドは昨

日の暑熱に反し **◆夜來の小雨** に拭ふが如く塵を攻め極楽

から來るといふ土用の車風がスイスイと場の白線をなめつつ六甲

の麓へ駛して行く、今日の競技中明星對桃中の白兵戦は優勝試

合にも優るべき好取組だといふので午前八時スタンドは早くも見

物で満員、練習中の明星商業の選手の見事なプレーヤー振りを應

援團が盛に囀し立ててゐる處へ選手を先頭に桃中の應援團が

◆筵旗を押し立て太鼓とブリキ鍮で足並を調へて入場す

る、援劔した級長から止まれの號令がかかるとスタンドの前で選

手と學友代表者が相對して整列學友側から宣言誓と檄文とを朗讀

して簡単な激勵式がある、檄文は選手と學友に宛てたもの、宣言

誓は選手に對して去歲の辱を雪がんだめ

◆石に咬り着 いても勝てよとの涙の告辭で代表者數名の

署名の下には夫々銅貨大の生々しい血判がベツタリ押してある、

午前十時愈競技は明星對桃中の試合より開始、メカホーンの聲、

太鼓の響、第一回兩軍得點なし、第二回兩軍得點なし、第三回兩

軍猶得點なし記録は追々嶮しく進んで行つた、勝つても負けても

涙の試合である

大阪朝日新聞 大正六年八月三日 夕刊

47 (記事)

●桃中生徒三百寺院に籠る

原因の不可解な同盟休校

教諭を見送りの途に態と方角を變へて

◆十七日までは平常の通りに授業を受けゐたる大阪の私立桃山中

學校生徒は同日午後二時十分天王寺驛發にて丹後の宮津中學に轉

任する宮澤教諭を見送らんとて同驛に集合すべき旨學校より命じ

たるに第三、四、五年級の大部分三百十名は道を反對の方向に取

りて東成郡平野停車場に集合し午後四時半發の汽車にて柏原驛に

下乗したり

◆その時柏原警察署の說諭をうけたるも生徒等は尙も道を一里餘

の東方南河内郡玉手山に到り安福寺に集合何事かを議するらしき

模様あり柏原警察署より急報に接し學校の當局は大に驚き周章て

、同夜十一時過ぎ擔任教師四名を安福寺に急派して歸宅を勧めん

としたるも生徒等は同寺の門を固く閉ぢて入れしめず

◆一方學校側にては各父兄に報知して生徒の說諭歸宅を説かしめ

んとし十九日早朝に至り學校側も各所より集合せし父兄と協力説

諭に務めたればその中二百十九名は一先づ午前九時十五分天王寺

驛に歸着各自歸宅したるが

◆原因その他に付いては學校側は不明なりと云ひ生徒側は當校は常に非國民的教育をなすを憤慨し居たるものなりとて他を云はず先の同盟休校と云ひこの度の事と云ひ苦々しき事なり

大阪朝日新聞 大正七年四月十九日 夕刊

48 [記事]

桃山中學の盟休

平野郷大念佛寺に會合

校長以下各教員の退職する迄

斷じて登校せずと決議す

『非國民的教育を排す』と叫ぶ

大阪市外田邊村なる私立桃山中學校の三四五學年級學生四百四十餘名中寄宿生七十餘名を除ける他の通學生全部は十七日午後三時の

放課後

突として平野郷の大念佛寺に集合し豫ての問題たりし退職教諭藤村守美氏の所説たる同校の非國民的教育の改革斷行に關する演說會を開き一同は「校長以下各教員の退職するまで

斷じて登校せず」との決議をなし同盟休校を約して舊關西線平野驛發(午後四時二十一分)汽車にて南河内郡柏原町に至り隊伍を組み玉手山遊園に出で同地安福寺に立籠り徹夜の自炊準備に取り掛り、之を探知したる砂子柏原分署長は巡查數名と共に現場に臨み懇々

説諭を

加へたるも委員(五學年組長)池崎正子、佐野楠弘、田附富之助等は

自分等は國民として非國民的教育を排し學校の革新を叫ぶものなり

とていつかな應ぜず遂に山門を鎖して歩哨を附し寺内にては頻に慷慨淋漓の談論を繼續し居たるが學校よりは三四五學年の各級擔當教師蜂谷、川崎、古屋、堀内四氏自動車を駆って馳付けたるも是又同様一步も入らしめず遂に夜を徹し十八日午前二時十九分柏原發の汽車にて一同

天王寺

に歸若し逢阪門前に忠孝主義を標榜して無料休憩場を開催せる道德館といふに集まり更に休學を約して九時過散會したり、學生等の主張が藤村教諭の非國民教育摘發と稱することに起因せるは明かなるも今回の舉動が藤村氏に關係ありや否やは明瞭ならず然して學校にては十八日午前十時より

(在阪評議員)木庭孫彦、森淑次郎、深田直太郎、ローリング

ス、淺野勇

諸氏を始め職員一同大協議會を開催し居れるが淺野校長は記者に對し

生徒の主張が如何なるものなりやは未だ聞かざるも多分例の非國民的教育云々にあるべし去れど學校は決して其のやうなる馬鹿もせず、また基督教と國家とは決して衝突するものとも思はず、故に今後如何なる處まで進むかは知らざれど學校は自然の成行を見て斷乎たる處置を取るの他なし若し、學生が宗教的なるが故に此の學校を厭ふとなれば最初より斯かる學校を選べるが誤りなり唯だ氣の毒なるは昨夜も愛子の歸宅せざるを苦にして學校に詰め切り職員等と共に夜を明かしたる百餘名の父兄諸君なり云々

尙學校にては十九日午前十時より父兄會を開催して

善後策 を講ずる筈なるが學生側の委員等は多分十八日午後を以て淺野校長を訪ふべし一方道德社に居残れる數名の學生等は

國民ですから非國民的教育を排するのは當然ぢやありませんかといふ意氣込みなるが同盟休校の背後には何者か潜み居る疑無きにしも非ずと

大阪毎日新聞 大正七年四月十九日 夕刊

49 (記事)

●桃中の紛擾

一段落

條件付で一先登校

▼既報桃山中學校の紛擾は未だ解決の途につかず十九日は午前十時より午後三時頃迄檄文によりて學校に出頭したる父兄に對し學校よりは「教育方針には更に變更を爲すを認めず、父兄にして本校の主義に賛成ならば生徒をして直に出校せしめられたく若し不同意ならば登校せしむるに及ばず」と言明して一々言質を執り同四時頃よりは教員會議に移れり

▼一方十七日夜河内玉手山安福寺に籠りたる五、四、三年生三百六名(寄宿舎生は全部舎監の意見によりて嚴正中立)の内十九日登校したるものは僅に數十名に過ぎず二百數十名は依然初志の貫徹を期し

▼天王寺公國前公德社に本部を置きて三月上旬以來暗々裡に奔走したる九名の委員其他數十名は凝議し父兄側委員約十名の者と午後四時頃より天王寺桃が池附近福井氏宅に於て會見し其主張を披瀝する所ありたるが

▼其結果生徒側の條件を或點まで容る、様父兄側委員に於て學校

へ盡力する事となり同盟休校せし生徒一同に對して父兄側委員より登校すべき事の通知を發する事に決し午後九時半解散したるが二十日は通知洩れ等の爲め完全なる授業は無かるべしと

大阪朝日新聞 大正七年四月二十日 朝刊

50 [記事]

●校長の姉妹娘

墮落して

警察へ召喚さる

女學生の風紀問題

◆阪神電車尼崎停留場から乗車して大阪へ通學する男女學生中に近頃風紀上如何はしき行ひある者少くないとて尼崎署にて注意するに十八日夜不良少年少女二十數名を召喚した

◆男學生は大阪の關西大學、關西甲種商業、桃中などに通學するもの十二名、女生徒は梅花、金蘭、相愛などの女學生であつた

◆是等の女學生は大抵中流以上の家庭に育つたものばかりで、中にも川邊郡某小學校長の姉妹娘二人あり

◆何れも男生徒の手にかゝりて墮落し家庭の目を忍んでは男女手

に手を取って武庫川、香櫨園邊りの松林を逍遙する又男生徒は女生徒を電車内又は停留場にて待ち構へ種々甘い言葉にて誘惑し居たもので一度此等の誘惑に陥つた女生徒中某の如きは三人の男學生を手玉に取つてゐたりと

◆同署にては一々父兄を呼出し嚴重説諭の上一先づ放免したが始めて娘の不始鰐を耳にした父兄達は仰天し中には泣き出す母親などあつた

大阪朝日新聞 大正七年四月二十日 夕刊

51 [記事]

桃山中學校盟休の其後

委員は現校長の退職を希望す

桃山中學校の同盟休校事件は十九日夜の父兄委員會に於て略相談まり一先づ復校する事に決したるが會議終了の時刻遅かりし爲め遍く各生徒の父兄に通知する能はず二十日は委員會の模様を傳へ聞きたる五年生十二名、四年生六十二名、三年生六十三名登校したるのみにて爾餘の生徒は二十一日は日曜なれば二十二日より登校すべき旨委員會より通牒を發すると共に二十日午後四時更に學

校附近なる田邊村福井増次氏方に委員會合し學校設立者たる木場〔木庭〕氏の出席を請ひて父兄の希望として淺野現校長の辭職勸告を要請したるが木場氏は評議員と相談の上何分の回答を爲すべしと答へたりと

大阪毎日新聞 大正七年四月二十一日 朝刊

52 〔記事〕

●桃中の小康

私立桃山中學校の同盟休校は其後父兄會と學校側と交渉中なりしが十九日の父兄會に於て同校某教諭の誠首を學校に申込み二十日更に學校に集合し學校側と最後の妥協を試むべしとて二十日會合せんとしたるに淺野校長は何故か一人々々に父兄會開催の不必要を説き終に同日の會合を開催するに至らざらしめしなどは校長に誠意なきものと認むとて父兄が憤慨し一時居中調停の勞を取りつゝ、ありしものも却て生徒と同一なる主張の下に學校に對して批難攻撃を始め校長に辭職せよと思卷き餘憤なほ去らざるが一方學校にては頓着せず終に二十三日午前同校生徒池崎外三人の生徒を退校處分に附したり學校にてはこれにて落着せるが如く思惟しをる

53 〔記事〕

桃中は一段落

表面は解決す

紛擾を重ね居たる大阪私立桃山中學校の盟休問題は廿二日學生殆ど全部登校したるにより淺野校長は其の主謀と目すべき五年生池崎正子、佐野楠弘、小林義雄、糸島實太郎の四名を放校處分に處し放課後歴史科の荒井教諭の就任挨拶後五年生以下七百の生徒に對し訓諭する所あり結局五年生の總代十名は淺野校長の面前にて謝罪し表面は一先づ無事解決したり

ならんもこれ形式的小康に過ぎず元來今回の同盟休校は學期末に起りし事件と關連しをれるは無論にして煽動者あるは誰人も豫想のつく事なるが煽動者によりてウマク結び附けられたる桃山中學校の宗教教育（反對側のいはゆる非國民教育）が根本的に解決せられ文部省所定の通りに全然分離せるものとなりて外人の手を離るゝ、か或は純粹に宗教學校となすか斷然たる處置をなするに非ざれば一時小康を得たりとも再發は免れざるべし

大阪朝日新聞 大正七年四月二十四日 朝刊

大阪毎日新聞 大正七年四月二十四日 朝刊

54
〔記事〕

主謀者四名を退校に處す

桃山中學盟休事件

先日の桃山中學盟休事件に關し其後父兄側委員は學校側と生徒側との間を奔走し調停したるも學校側の態度飽迄強硬にして二十三日其主謀者と目せらるゝ五年級生徒池崎某外三名を斷然退校處分に附したるより生徒側は益々激昂し校長排斥運動を起すべく寄々會合し居れば或は紛擾の火の手再燃するやも知れず父兄側委員は極力兩者の間を斡旋鎮撫中なり

大阪毎日新聞 大正七年四月二十四日 夕刊

55
〔記事〕

桃中同窓會員の東京運動

既報の大阪府桃山中學の同盟休校に關し同中學卒業生中の有志は

目下上京各方面を歴訪し近く首相、内相、文相を歴訪して母校の教育が非國民的なるを陳述すべしとて其例證を擧げて運動を開始せり（東京電話）

大阪毎日新聞 大正七年四月二十八日 朝刊

56
〔記事〕

桃中生徒約二百名

血判の歎願書

過般の學校紛擾を

英人僧正に裁かれるが不平
ヒレヨウフ

一同隊伍を組んで府廳に知事を訪ふ
桃山中學同盟休校事件は首謀者と認めらるる五年生四名を退校處分に附し生徒一同復校して落着せるものゝ如くなりしが學校側にては同校の最有力者なる
英人僧正ビンヨウフに最後の解決を求むべき意嚮なるを生徒等が聞き知り斯かる問題を一外人の手に裁かるるを快しとせず一日午後一時半學校放課後三年級以上約二百名の生徒は校服の儘天王寺公園前なる無料休憩所公徳舎に集合して學校當局者攻撃の演説を爲し飽まで桃山中學校廓清の實と擧げ

度き旨の歎願書三通を作成して一通を總理大臣、一通を文

部大臣、他の一通を大阪府知事に差出す事とし最初生徒中より十數名の者指を切りて右三通の歎願書に血判したるに他の生徒等も我も我もと先を争って各自に指を切り二百餘名悉く血判し公徳舍内は血腥く忌はしき光景を呈したるが生徒一同は協議の上總理大臣及文部大臣宛の二通を折柄右會合に同席せる桃中卒業生にして目下早稲田大學生たる平野某に託し知事宛の書を携へて午後六時隊伍を組み同所を發し市内各新聞社を歴訪して今回運動の顛末を述べ七時府廳に到りしが知事退廳の後なりしより代表者六名は高等課の小林、津村兩警部に面會し該歎願書を提出し事情を具陳し八時半平穩に解散したり

大阪毎日新聞 大正七年五月二日 朝刊

57 (記事)

●桃中の盟休

▲林知事談

私立桃山中學校の同盟について林大阪府知事は語る「桃山中學が果して宗教學校的臭味を滯びてゐるか否かといふ事は實際上に就て一々調査をした上でなければ今茲に言明する事は出来ないが學

校當局者が若しさういふ教育の目的で學校を経営して居たのならば夫れは間違つてゐる無論宗教の傳道といふ事は、事である傳道の傍公共事業に盡精するといふ事も大いに歡迎しなければならぬ、然し若しその傍らの事業を以て宗教傳道の方に資するとならば其れは單に理論上不可といふばかりでなく勞して効なき結果に終るであらう現に宗教病院だの眞の宗教學校などは漸次勢力を失ひつゝある状況に見ても知れる、先般桃山の校長が來た時私一個の意見として述べて置いたが同校長も大に同感だと云つて居た宛に角學校といふものを認めてゐる以上は生徒が騒いだからとてさう無暗に監督官が干渉する事は出来ぬ、或程度まで管理者に處置を委任して置かねばならぬ唯當局としては教育方針に不都合がないかどうかといふ事を監督して居ればよいので目下夫れ／＼調査せしめてゐる、生徒の騒動とか陳情とかいふ事は當局は念頭に置いて居ない云々因に長山觀學は實地取調べの爲二日桃山中學校に出張せるが要するに本問題は再三吾人の唱道せるが如く學校の根本問題を解決せざる限り解決はつかざるべし

大阪朝日新聞 大正七年五月三日 朝刊

58
〔記事〕

● 桃中生三百餘名

連袂退校を決議す

父兄側委員へは「自由行動」を通告す

大阪市外桃山中學校の所謂非國民教育方針撤廢問題に就き本月一日三四年級生二百十名が血書したる陳情書を林府知事及び首相、文相に提出後も授業を受けぬたるが父兄側委員は「財團法人となる迄校長に一任すべし」との答辯を與へたるより遂に痺を切らし八日午後二時半頃より又も三、四、五年生三百餘名は天王寺公園前公德社に學生大會を開きて凝議四時間後宣言書を發表し同時に父兄側委員に對しては「生徒一同自由行動を取る事」を通告し一兩日中に三百餘名は連袂退校届を出す事を決議して解散したり

▼ 退校届は受附けず

淺野校長の談

午後九時頃に活版刷の右宣言書と謄寫版刷になった四枚の理由書といふものを見ました、學校では何れ九日に教員會議を開いて善後策を講ずる積りですが假令退校届を出したとて入學なり退校なりの届は父兄保證人が爲すべきものですから其承認が無ければ斷

じて受附けませぬ、父兄保證人が正式に届出るものであれば夫は止むを得ませぬ、私の進退に關して云云する新聞もある様ですがそんな事は決して語ったことはありません、學校の財團法人制に就いては己に昨年五月香櫨園に於て開かれた宣教師の臨時會議で議決されてゐますから昨今若々其歩を進めてゐる次第です、子供達のする事ですから智慧も無く分別も無く聊か閉口してゐます、宣教師の手によつて今度の事件を解決するといふ事も既に過去の事實です、九日の午後にならねば果して生徒側の態度が如何なるものか解りませぬ云々

大阪朝日新聞 大正七年五月九日 朝刊

59
〔記事〕

桃中生四百名退校を申合す

八日會合の結果

紛擾を重ねつゝある私立桃山中學校生徒四百餘名は八日午後二時より又復天王寺公園前なる公德社に集合し校長排斥學風刷新の氣勢を擧げ今日まで父兄會に一任したるも何等廓清の見るべきものなきより三四五學年生全部及び二學年生有志等四百餘名は此際斷

然退校して學校の覺醒を待つ事に決し宣言書を發し各自退學願を
作製して保證人の連署を待たず直に學校に送達する事を申合せて
六時頃解散したり當日は眞に退學せられたる池崎某外二三名も出
席し居たりといふ

大阪毎日新聞 大正七年五月九日 朝刊

60 〔記事〕

●其後の桃中

知事の注意

桃中の紛擾に關し學校側は比較的に冷靜を持し居りて淺野校長の
言に據れば「八日夜中に受領したる届出は百五十九名に過ぎず其
後の分は未だ判明し居られど學校としては平常通り授業を繼續
し居れり」と言明したるが生徒側は中々強硬なるより警察本部に
於ては天王寺署に命じ警官數名を派して取調べを爲さしめたり學
校側は九日傳道會社側の協議會を開催する豫定なるより林大阪府
知事は同日午前父兄會の委員九名を府廳に招き傳道會社側協議會
に出席して意志の疏通を計りては如何と注告する所あり。父兄會
側にててもその希望にて既に八日夜電報を以て有馬にある傳道會社

側代表者たるローリング氏宛右參加の交渉をなし居たる事なれば
知事よりも學校側に右の申出を承諾するやう交渉せり

大阪朝日新聞 大正七年五月十日 夕刊

61 〔記事〕

桃中問題と三僧正

十分事情を調査した上

意見を具して本國の指揮を仰ぐ

父兄側は手を切つて貰ひたい望み

桃山中學の根本改革問題につき日本基督教聖公會の實權を握れる
ハインド(九州)バンカム(本土)ラング(北海道)の三僧正は
書記マーン氏を從へ此程中有馬温泉に會して熟議中なりしが實地
調査のため九日午前十時より打連れて桃山中學に臨み淺野校長教
員等より實狀を聴き取り午後六時よりはプール女學校に於いて桃
山中學校學生の父兄總代等と會見し詳細に其の意見を聴取したり、
記者は此の三者中第一の先任者にして常に座長たるハインド氏を
訪ひ今回の學生騷擾に對する處置を糺したるに書記マーン氏も座
にありて共に語るところ漸く改革の實現を想見するに足るものあ

り

實際今度の問題では随分困り切りました、で如何にすればよいかと四人が集まって實は有馬で練って居りましたが空論では駄目ですから

事實を調べて

最後の斷案を下さうと考へたのです、

大阪府の知事さんもこれは創立者に任すより他ないと仰しやるさうですが、宗教者が單に教會堂を作らずして學校を經營する上には自ら宗教と教育との長所を別箇に發揮しやうとするのですから學校を建てるのに

宗教の儀式を

強ひるやうなものは固より要らないです

が學校を止めるか何うかは大問題です、又中學校としての特權を得なくても學校として或る種の教育を如何ほどまで行ひ得るかといふ點も大に考へて居るので爾うな場合學生の減少すること、教育の範圍を決める虞のあることも知って居ります、が萬事は我々會議の決議を

本國に報じて

東洋部長ベリス氏の意見によって定

まることとなる筈ですから二三箇月をはかゝるでせう先づドンナものになりますか私たちにも解りません

以上談話中に來校せる父兄總代委員等は云ふ

外國宣教師等は飽までも此の學校に執着するが如き態度を持し

居れるも到底維持の不利なるを知らば適當なる方法によつて他の

獨立經營者に

譲り渡すを辭せざるが如き内意ありとも傳ふるものあり萬一其様なことにもならば自分等父兄側としては至極理想的なりと思惟し居れり云々

大阪毎日新聞 大正七年五月十日 朝刊

62 [記事]

桃山中學校長に

辭職勸告

父兄會の決議公式に發表

桃山中學父兄會は十一日谷町松の亭に大會を開きたる結果淺野現校長に辭職を勸告して一時も早く問題を解決するに決し父兄會長中島鐵造委員福井豐三郎、島村吉之助氏等は十三日午前十一時より大阪ホテルに會合し同校宣教師會に此旨を傳達すべき事並に校長に對する辭職勸告の決議を公表せり、父兄大會が校長に對し辭職勸告をなすに決せる理由は同校長が帝塚山學院理事を兼務して本職か内職か分らぬ如き不熱心の態度あり最近四箇年間殆ど教室

を見舞へる事さへなく僅に一兩度聖書の講義の時間に一寸顔を出したる位にて校長として甚だ不忠實なりと云ふにあり尙後任校長の銓衡については宣教師會に一任し父兄會は之に容喙せざる方針なりと

大阪毎日新聞 大正七年五月十四日 夕刊

63 [記事]

〔全國學生相撲大會出場選手の体格〕

校名	姓名	身長	體重	年齢
桃山中学	石堂萬代	五尺六寸	十八貫	十九
	阪本達也	五尺六寸	十八貫	十九
	竹田繁七	五尺六寸	十八貫	十九
	補 <small>森山秋松</small> 小山太介	五尺七寸	十九貫	十九
	缺 <small>森山秋松</small>	五尺五寸	十七貫	十八

大阪毎日新聞 大正九年十月三十日 朝刊

64 [記事]

〔全國學生相撲大會〕

(中等學校)

個人決勝

第一回戦

勝 預

立命林 (和歌山) 高一 中山中
 和歌商 稻垣 (和歌山) 神港商 本濱
 愛一中 吉田 (和歌山) 和歌商 志埜
 高一 中前田 (和歌山) 神戸商 五百蔵
 和歌商 川西 (和歌山) 高知農 岡田
 御影師 岡本 (和歌山) 大阪農 盛野
 愛一中 塚本 (和歌山) 大商 吉本
 桃山中 竹田 (和歌山) 高知農 寺田
 桃山中 阪本 (和歌山) 東山中 中島
 東山中 川瀬 (不戦一勝)

第二回戦

東山中 河瀬 (和歌山) 立命 中林

御影師 岡本(あき)愛知一塚本

高知一 前田(あき)和歌商 川西

桃山中 阪本(あき)愛知一 吉田

桃山中 竹田(あき)和歌商 稻垣

第三回戦

御影師 岡本(あき)東山中 河瀬

桃山中 竹田(あき)高知一 前田

桃山中 阪本(不戦)

第四回戦

桃山中 阪本(あき)御影師 岡本

桃山中 竹田(不戦勝)

決勝戦

桃山中 竹田(あき)桃山中 坂本

中等
学校
個人優勝者

一等 桃山中 竹田

二等 桃山中 阪本

三等 御影師 岡本

以上の勝負で全部の取組は茲に目出度く終了した時に午後五時、

引續き土俵の中央に於て兩優勝學校及び個人優勝者一、二、三等に對し七萬の觀衆歡呼裡に本山本社長及び吉田司家より夫々に左の通り名譽の優勝旗を始め其他の賞品を授與し終ると本山社長の發聲で觀衆總立になつて萬歳を三勝し大成功裡に第二回相撲大會は閉會した、時に午後五時二十分

専門學校優勝 早稻田大學へ

一、優勝旗 一旒

一、小型優勝旗 一旒

一、稽古廻し 五本

(東京相撲協會より)

中等學校優勝 和歌山商業へ

一、優勝旗 一旒

一、小型優勝旗 一旒

一、稽古廻し 三本

(東京相撲協會より)

専門學校個人優勝

一等 神戸高商 糸谷君へ

一、銀製大カップ 一對

一、練絹及び目錄（吉田司家より）

一、締 込 一筋

（東西兩協會より）

二等 神戸高商 田中君へ

一、銀製中型カップ 一 對

三等 早稻田大學 淺岡君へ

一、銀製小型カップ 一 對

中等學校個人優勝

一等 桃山中學 竹田君へ

一、銀製大型カップ 一 對

一、練絹及び目錄（吉田司家より）

一、締 込 一筋

（東西兩協會より）

二等 桃山中學 阪本君へ

一、銀製中型カップ 一 對

三等 御影師範 岡本君へ

一、銀製小型カップ 一 對

堺市から刀劍寄贈

齋藤堺市長は同地で斯の如き盛大な大會が開かれたのを名譽とし

同市の刀工延壽傳源國久氏をして新に刀二口を鍛造せしめて寄贈し賞狀授與式に臨場、専門學校中等學校兩優勝校に對し目錄を贈呈した

大阪毎日新聞 大正九年十一月一日 朝刊

65 〔記事〕

本社全國野球大會豫選

大阪大會（最終日）

市岡優勝す

市岡中學對桃山中學の優勝戦は五日午後二時半から下山（球）小林、土屋（壘）三氏審判の下に市岡の先攻で開始した▲第一回 市岡池田四球に出で森田の犠打に送られ空四球の後盜壘して三壘に進み近藤の中前安打に二者還り近藤は捕逸と南の二壘に三壘に據り捕逸に生還、土肥三振▽桃中有山投捕失に生き捕逸に進み一死後中川の犠打に還り一點を恢復し伊藤四球に出たが後軍無爲▲第二回 市岡一死後伊吹死球に出で松尾の二壘遊失に二者生き捕逸に進み投手の牽制二失に伊吹還り池田四球、森田遊捕失に満壘となり空の左中間三壘打に三者生還、後續凡退▽桃中無爲▲第三回 市岡三者凡打▽桃中中村遊捕失に生

き有山の遊匍に封殺されたが竹田の中前安打に有山三壘に據り竹田の二盜壘後中川中前に絶好の安打を放ち二點を入れる▲第四回市岡松尾一飛失に出で二死後空の左前安打に還り近藤の内野安打に空還り二點を増す▽桃中海城二匍失に出たが岡崎の左前直球左翼の好投に封殺され岡崎は牽制球に釣り出されて一二間に挟殺され土田一匍して機を逸す▲第五回 市岡二死後伊吹二匍失に生き松尾四球の時捕手の無謀なる二壘投球に三壘に據り池田の左中間安打に生還す▽桃中一死後中村左中間二壘打に出たが後續凡退▲第六回 市岡森田二匍失に出たが後援なし▽桃中中川遊二間安打伊藤一壘線上の安打に出で一死後岡崎二匍失に満壘となったが土田の投匍に中川封殺され横田一飛して好機去る▲第七回 市岡二死後伊吹二匍失に出たのみ▽桃中中村四球有山遊匍失に出で竹田の遊匍に有山封殺されたが中川の中飛轢打に中村生還一點を恢復し伊藤四球二盜したが海城三直に死す△第八回 市岡池田四球、森田二飛失空投匍三失に無死満壘となり忽ち二死となったが捕逸と三安打及び敵失に打撃一巡し一舉七點を奪ふ▽桃中岡崎遊撃を抜き一死後横田四球を利したが後援無爲▲第九回 市岡三者凡退▽桃中棹尾の攻撃に入ったが三者凡退し十七對四で市岡中學の優勝に歸し佐々木大阪高商教授から優勝旗を授與され午後五時五分大會を終了した

66
〔記事〕

英皇儲御西下

大阪御着少し早くなる

英國皇太子殿下は二十六日午後八時過ぎ湯本岩崎男別邸で御晚餐の後御旅館別室で特に主人岩崎男爵夫妻に謁を賜はり御丁寧なる御別れのお言葉があつて九時五十分御出門、十時四十分國府津驛に御着になり貴賓室で御小憩、井上知事以下の奉送者に握手を賜り十時五十分萬歳聲裡に京都に向ひ御出發になった(國府津電話) 英太子の大阪上本町六丁目御着時刻は五月五日午後三時の處
同二時四十分と變更され

[illegible]

從つて同所發二時五十分、大阪城着三時十分、同發三時三十分、市廳着三時四十分、奉迎式終了四時二十分、大阪驛發正五時

と訂正發表された、又大阪師團軍隊が沿道へ堵列するに就いて市民の拜觀が妨礙されると云ふので府保安課から成可く陸軍用地内に整列せしめられたき旨申出があり二十六日府並に市當局と種々打合せたが結局軍隊側は既定の通り本町橋から憲兵隊角迄北側を軍隊南側を在郷軍人會員とする事とし其他左の如く取極められた上本町六丁目より日本橋筋一丁目まで南側各種團體、南區小學生、北側桃中、プール女學、附屬、南區小學生▲日本橋北詰より本町二丁目まで西側西區小學生、專門中等各學生東側同様▲本町二丁目より本町橋まで兩側青年團更に大阪驛に到る御道筋は

本町二丁目より北濱二丁目まで兩側東區小學校▲北濱二丁目より梅田車庫まで兩側北區小學校及び各種團體

而して城内では紀州御殿前に上長官以上整列し殿内廊下で團隊長以上は殿下の握手を賜はる事となり又天守臺上及び大手門前は日英兩國旗にて裝飾すべく準備が進んでゐる

大阪朝日新聞 大正十一年四月二十七日 朝刊

67 「記事」

卒業後の

志望調査

府下中學生

大阪府學務課に於ては最近府下の府、私立中學を通じて其第四、五學年に就き卒業後の志望を調査したが之に依ると右全學校を通じて見たる志望別は百人に對し

高等學校三十五人、公私立大學豫科十二人、專門學校三十一人、陸海軍一人、高等師範學校其他の教員養成所三人、其他の學校四人、直接に實業に従事する者四人、未定十人

といふ割合になつて居る、他の諸學校に比較し高等學校の志望者が漸然頭角を擧げて居るのは注目し値すべく之を一々の學校に見れば

北野百六十四人、天王寺百六十六人、市岡百一十一人、今宮百四十二人、高津百六十一人、生野八十四人、豐中百四人、堺七十五人、八尾二十五人、茨木六十四人、岸和田四十三人、富田林二十七人、四條畷三十三人、上宮六十一人、桃山六十四人

といふ數を示し此中でも豐中、北野、天王寺、今宮の諸校では生

徒百人に對し優に五十人を突破するといふ盛況である、公私立大學志望者の多いのは八尾、桃山、上宮、四條畷の諸校であつて何れも生徒の約二割方を上下して居る高等學校に次で最も多い各種専門學校は

北野八十九人、天王寺九十二人、市岡九十六人、今宮六十九人、高津百一人、生野百五人、豊中三十七人、堺六十一人、八尾七十八人、茨木七十三人、岸和田九十四人、富田林五十三人、四條畷八十五人、上宮五十二人、桃山七十人

であつて此等各種専門學校の中でも最も多いのは矢張り商業、工業方面であつて前者が全部を通じて四百九十一人後者が四百十三人に及んで居るに對し最も少いのは農林方面であつて僅に三十一人を數へ得るに止まる、更に最も注目を惹くは前記軍人の志望者が百人に對して唯一人の割合にあることで全部を通じて僅かに四十七人しかない、高師其他の教員志望は概して郡部の學校例へば八尾、富田林、四條畷等に多く直に實業に従事する者も同様郡部の諸中學に多い

大阪朝日新聞 大正十三年十月十四日 朝刊

68 「記事」

月下の甲板で講演

桃中生と夜更くる迄交歓

招聘四大選手別府に着く

九州、中國地方の觀光を兼ねて西部日本のアスリートに各種競技の模範を示すため十四日午後二時大阪出帆の商船紫丸で西下の途についた本社招聘の四大選手一行は船中例によつて元氣極めて旺盛で船が大阪から神戸、明石沖と比較的四選手に馴染の多い大阪湾を走つてゐる間は特に興味を惹くものもないが、明石海峡を超えて間もなく夜に入り東天の波に十六夜の月を見出す頃から一同大いに興を催し、折柄修學旅行で別府に赴きつゝある大阪桃山中學の生徒數十名に學生好きのスペアロー君一場の講演を試むると、その御禮として桃山中學生徒が校歌を合唱し四選手の萬歳を唱へる、スペアロー、ショルツ、ノルトンの三君が例の三部合唱をやつてそれに酬いる、更に桃中生徒が堅いデッキの上で痛いのも關はず柔道や劍道の型をやつて見せるという風で午後九時船が高松に着く頃まで上部甲板は兩者の交歓で賑ひ、高松を過ぎてからも四選手は月下に夢の如く浮く島々を送り迎へる瀬戸内海の勝景を賞しつゝ夜を更かし十一時寝に就いたが、十五日も

早朝から前日に劣らぬ好天氣で紫丸の林船長、關屋事務長以下の
到らざるなき歡待と相俟って孰れも大満足の裡に別府に到着日名
子旅館に投じ晝食の上午後地獄巡りを行った(別府電話)

大阪朝日新聞 大正十三年十月十六日 夕刊